

2016年3月、 都内有数Aランクの 耐震ビルとして 生まれ変わりました。

最新型、都内Aランクの耐震性能はもとより、
インテリジェント機能をも考慮した新たな空間へと生まれ変わります。



2016年初旬、塩崎ビルはさらに新しく生まれ変わります。
建替えではありません。

瓦礫を出さない、よりエコロジーな耐震工事を推進し
皆さまにとって、より誇れるビル、より安心いただけるビルに変わります。

例えばヨーロッパの市街地には、築500年を超える建物もあります。
古くなったから建て直すという考え方ではなく
そこには、永く使用するためのたくさんの工夫が詰まっています。

私たちは、時代に適応した機能性をも備えながら、
快適で、かつ自然に優しいビジネス環境をご提供します。

「開放的アトリエ空間を実現。」



鉄骨フレーム
耐震補強

デザイン的な居住性を損なわない。

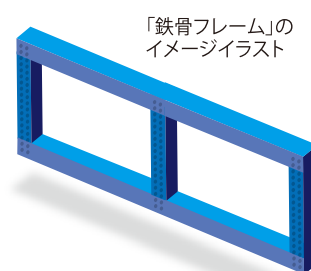
クリアな視界を作る鉄骨フレーム

「耐震補強」というと、どうしても無骨な仕様を思い描いてしまいます。

実際にはそういったイメージが強い中、塩崎ビルが採用する鉄骨フレームによる補強は、「工法の適材適所」を考慮しています。

たとえば窓に面した要所では、斜めの筋交いが入る鉄骨ブレースを使用せず、よりスッキリした形状の鉄骨フレームを採用し、極めて機能的かつ開放感溢れる居住性能を重視しています。

「同様の強さ」を得ながら、より美しく開放的なアトリエ空間を実現します。



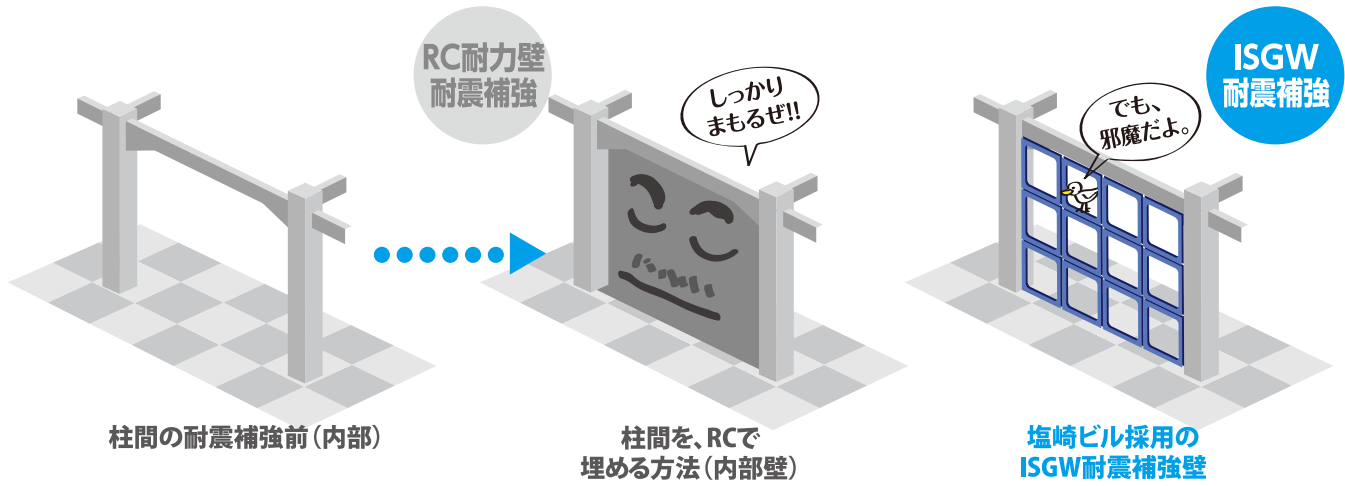
「鉄骨フレーム」の
イメージイラスト

after

before



「可視耐震壁」



ビル内部の「耐震補強」に関しましても、強度はもちろん、デザイン性をも重視していきます。

内部における柱間を、鉄筋コンクリートの壁によって埋めてしまう方法、「RC耐力壁増設方式」は、耐震強度は得られるものの、閉塞による不都合や弊害を伴ってしまうのも事実。

塩崎ビルでは、厚さ約10cmのユニットを組み合わせ、必要な強度を発揮する耐震壁、「ISGW耐震壁」を適所に採用することで、閉塞による弊害を限りなく軽減。ビル主要外部をはじめ、オフィス内部にも、強く美しい、理想的な環境を創ります。



after

before



「そして、これからの50年も。」

塩崎ビルの「エコ」とは、世界的な哲学者、故 今道友信 国際エコエティカ名誉会長(故人)によって提唱された「エコエティカ」を、実践的に展開しており、未来に向けたプロジェクトです。

塩崎ビルには、2012年まで「哲学美学比較研究国際センター」があり、そこで「エコ」に関して、今道先生から直々にご指導いただきました。

歴史あるエコ・スマートなスタイルを、これからも健全に提唱し続けてまいります。